

Oral presentation

[A] Symbiotic microorganisms

Sun. Mar 31, 2024 9:00 AM - 11:45 AM Site A (Tachibana)

9:15 AM - 9:30 AM

[A-36]捕食性天敵タバコカスミカメの細菌叢解析

○Yuta Owashi¹, Toma Minami², Taisei Kikuchi^{3,4}, Akemi Yoshida³, Ryohei Nakano^{2,5}, Daisuke Kageyama¹, Tetsuya Adachi-Hagimori² (1. NARO, 2. University of Miyazaki, 3. University of Miyazaki, FS, 4. The University of Tokyo, 5. Shizuoka Pref. Res. Institute)

昆虫に感染する共生細菌は、宿主の摂食や繁殖、分布等に影響を与えることが報告されている。本研究では、捕食性天敵タバコカスミカメの細菌叢を明らかにし、感染頻度と地理的要因の相関から、細菌との相互関係を考察した。16S rRNA遺伝子のアンプリコンシーケンス解析の結果、国内14地点で採集したタバコカスミカメから、9種の主要な細菌 (*Rickettsia*, 2系統の *Wolbachia*, *Spiroplasma*, *Providencia*, *Serratia*, *Pseudochrobactrum*, *Lactococcus*, *Stenotrophomonas*) が同定された。これらのうち、昆虫類に広く感染している生殖操作細菌について診断 PCR (n=360) を行ったところ、最も高頻度で感染していた細菌は *Rickettsia* (69.2%)、続いて *Wolbachia* (39.2%)、*Spiroplasma* (6.1%)であった。*Rickettsia*の感染頻度と緯度、気温には相関が見られ、*Wolbachia*, *Spiroplasma*の感染頻度は、寄主植物との相関が見られた。